

ふるさと歴史アラカルト

錦帯橋の架け替えっていくらかかるの？

歴史に関するテレビなどを見ていると「今のお金に換算すると〇〇円に当たる」という説明があります。これは今と昔では物価や人件費が大きく異なること、基準とする物やその相場などによって計算が大きく変わることから、本来、参考程度の金額でしかありません。しかし一方で、現在の金額に換算することによって歴史を身近に感じることができるという面もあります。今回は江戸時代の錦帯橋の架け替え工事にどのくらいかかったかを考えてみたいと思います。

安政4(1857)年から5年にかけて、錦帯橋の第4橋の架け替えが行われました。このときの決算書に当たる『算用小日記』が残っており、それによると架け替えに要した費用は銀48貫961匁8厘3毛でした。『御米御買値段』(山口県文書館蔵)によると、安政5年の長州藩の米相場は銀100目あたり0・713石だったので、費用を米に換算すると、約350石となります。米1石は150kgに当たるので、

350石は米5万2500kgとなります。米10kgを5千円くらいと考えて計算すると、この架け替えには約2625万円かかったこととなります。

また少し前の弘化2(1845)年にも第4橋を架け替えています。そのときの費用は銀90貫目余で、米に換算すると1100石余だったと記録されています。これを同様に計算すると約8250万円かかったこととなります。時期や相場などによって金額が大きく変わってることが分かります。

なお安政5年には領主が江戸に参勤しており、そのときの費用は銀1056貫目余だったと記録されています。これを米に換算すると7529石となり、同様に計算すると約5億6468万円かかったこととなります。江戸時代の参勤は、非常に大きな負担であったことが分かります。

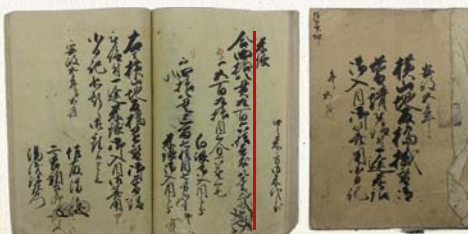
最初に述べたように、これらはあくまで参考ではありますが、昔のいろいろな費用を現在のお金に換算してみると面白いかもれません。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

※1 1貫の10分の1
(100目=100匁)
※2 48961.83匁
100匁 × 0.713石 =
349.1石

写真：『算用小日記』
(右が表紙、左の赤線部
が合計金額部分)



岩国市 人口・世帯

人口 132,585人【前月比 -747人】 男性 62,943人 女性 69,642人

世帯 65,438世帯【前月比 -44世帯】 ※外国人人口を含む(2020年4月1日現在)

交通事故発生件数

3月分事故件数 22件(65件) 死者数 0人(1人) 傷者数 27人(83人)

※高速道路発生分を除く。()内は2020年累計

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX(21)3337